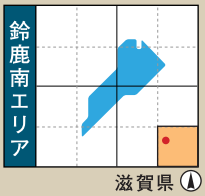
天然記念物

国指定

鎌掛谷ホンシャクナゲ群落

日野町鎌掛　昭和6年3月30日指定



晩春から初夏にかけて、鎌掛谷ではホンシャクナゲの可憐な花が、山の中腹を埋め尽くします。かつて、台風による増水で、水辺に生えるシャクナゲの根が洗われてしまいましたが、母岩までしっかりと根を張っていたため、地元の手による補修工事により、元の姿を取り戻すことができました。咲き競うシャクナゲは、訪れる人々に、自然の美しさと共に自然の持つ生命力の強さも伝えてくれます。

ホンシャクナゲ群落

ホンシャクナゲの群落は、鈴鹿山脈の西側の鎌掛谷にあります。標高310m前後に爺斧岨（やぶそ）川があり、群落は、この北斜面の約4万㎡の範囲に広がっています。ホンシャクナゲは本来、高地性の植物で、標高800～1000m前後の所に自生していますが、このような低地に、しかも群生しているのは全国的にも希なことです。ここには、5万株にも及ぶともいわれるホンシャクナゲが自生しており、その樹高は1.5～7mで、古木の中には周囲が60㎝を超えるものも見られます。4月下旬から5月上旬にかけて開花し、紅紫色・深紅・淡紅色・薄桃色・白に近いものなど、変化に富んだ花を咲かせます。

この群落は、高木層にアカマツがまばらに生える明るい山にあり、亜高木、低木層をホンシャクナゲが優先しています。ここに、ツツジ科のアセビ、ネジキ、コバノミツバツツジ、アクシバなどの他に、タカノツメ、クロソヨゴ、エゴノキ、シキミ、ヒサカキ、ソヨゴなどが混生しています。草本層にはオオイワカガミ、ウラジロが目立ちます。また、水のかかるところには、オオミズゴケなどのコケ類がマット状に生育しています。

ホンシャクナゲは、毎年同じように咲くわけではなく、よく咲く年と、余り咲かない年を交互に繰り返しています。



ホンシャクナゲ

滋賀県の花 しゃくなげ

シャクナゲは、滋賀の県花です。昭和29年に、ＮＨＫなどが加盟する「県花を決める会」の呼びかけで行った投票により、「しゃくなげ」に決まりました。この「しゃくなげ」は「ホンシャクナゲ」を指し、鎌掛谷以外でも、比良山地、鈴鹿山脈などでも見られ、滋賀県を代表する花となっています。この美しい花が自然に生育し続けられるよう、県民みんなで生育環境も含めて、守っていく必要があります。



シャクナゲ群落

シャクナゲについて

シャクナゲは、ツツジ科ツツジ属に属する常緑低木です。

ヨーロッパ、アジア、北アメリカなどの北半球に広く分布し、500種類以上あるといわれています。特に多く分布するのは、ヒマラヤから雲南、四川省などです。野生種は、マレーシアやニューギニアで種が分化したマレーシャクナゲ群、ツツジ・アザレアの仲間、ヒカゲツツジなどの有鱗片シャクナゲ、無鱗片シャクナゲの、四つのグループに分けられます。この中で、日本シャクナゲと呼ばれるものは、ほぼ無鱗片シャクナゲに分類されます。

日本の野生のシャクナゲは、日本全域に分布し、ホンシャクナゲのように高山帯に生育するものから、里山近くに生えるものなどがあり、多くの変種が生まれる素因になっています。一般にシャクナゲといわれているアズマシャクナゲは、本州中部より東に分布し、山深い場所に自生します。平均2～3m程度に生長し、葉の長さは大体12～18㎝程度、花はじょうご状で、枝の先に咲きます。

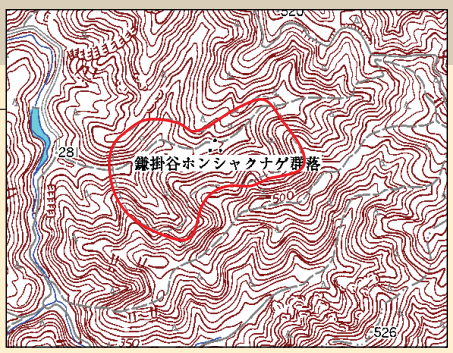
ホンシャクナゲは、本州中部より西と四国に分布しています。多くの花は7裂して（5裂のものもあります）、雄しべが14本あることが特徴です。

関連する文化財

草津白根のアズマシャクナゲおよびハクサンシャクナゲ群落（群馬県草津町）	低山帯上部から亜高山帯まで広がる自生地。5月中旬から6月中旬まで開花する
一ノ瀬のホンシャクナゲ群落（岐阜県石津町）	本州中部における代表的なホンシャクナゲの自生地として指定された
多良岳ツクシシャクナゲ群叢（長崎県高来町）	ツクシシャクナゲが標高700m程のシャクナゲダイラに群生する。ツクシシャクナゲは、野生シャクナゲの中では最も園芸的な価値の高い種類である

もっと深く知りたい

日野町教育委員会　☎0748-52-6566　日野町河原470



鎌掛谷ホンシャクナゲ群落へのアクセス

近江鉄道　日野駅下車
名神高速道路　竜王インター

【参考文献】〔日本の天然記念物〕講談社　〔滋賀縣天然記念物調査報告〕滋賀縣保勝會

滋賀県教育委員会事務局文化財保護課　平成16年3月